

巻末資料		* 学校等で推奨される動物種 *	
品種種	性格、特徴	備考	
(扱い方)	どこまでも静かにやさしく扱い、「怖い人ではない」「自分は大事にかわいがられている」と動物が感じるように世話をすると、信頼してくる ……………信頼してくれば、人が近づいた時に、寄ってくる (人から逃げようなら、人の態度に改善の余地あり)		
チャボ	親に育てられているため、文化が伝わっている 社会的な頭脳を使う動物 かわいがられれば優しい反応をして人によくなる 10～15歳が寿命	屋外での飼育 糞尿もはき取ればよい 世話が簡単 江戸時代日本で創られた愛玩用の鶏 ももとは天然記念物	
ウサギ	意地があり、かわいがらないと逃げ回るか反撃してくる 信頼すれば、触って欲しと、そばにきて、人の手も舐めてるようになる 6～10歳が寿命。	糞尿が多く掃除の手を抜けない 固形資料で歯や腎臓を悪くするので、乾草や野菜を多く与えること 水ももちろん必要	
モルモット	屋内のケージで飼う 衣装ケースで飼える 5歳位が寿命 人を信頼すると鳴いて餌をねだる 20度くらいが適温、なんらかの暖房や冷房を考える	屋外ではなく、室内飼育 人の健康のために、野生ネズミから病気がうつらないように飼う 糞尿が多く掃除の手を抜けないが、簡単なケージで飼える	
ハムスター	比較的人になれない 3～4歳くらいが寿命 ★ジャンガリアンなどの小型種にアナフィラキシーを起こす人がいるので、ゴールデンハムスターなど大きい種類を飼う	落下事故で骨折するので、平面で飼う 冬の低温で疑似冬眠(仮死状態)になるので、夜もダンボールで囲い、暖かい工夫を	
文鳥	やさしい性格で、オスは良い声でさえずる 小鳥は長生きで30年くらいが寿命といわれている 小さい子や中学、高校での飼育に向いている	屋外の飼育舎には向かない 冬の寒さ、春からの直射日光による熱中症にさせないためにも、校舎内で小鳥籠で少数ずつ飼う 冬の夜にはダンボールで保温して飼う ケージに敷いた新聞紙などを毎日とり変え、糞を取り去る	
セキセイインコ(不適當種)	うるさすぎるほどさえずる 一人の人にしか馴れないなど、比較的心が狭く、意地悪きみ肉食に向けた嘴で人を噛んで、離さないときがある 子どもの飼育活動には向かない 大きなインコ類は、猛獣と分類され、獣医師も皮手袋など防備して診療する種類	* 小鳥は、1日の絶食・水で半数が死に、一日半の絶食・水で全滅する。	
* 飼わない方が無難な動物種(ふれあえない・手間がかかりすぎる)*			
ヤギ	母ヤギを預かって出産させ、メス仔を残し、オス(気が荒く飼いきれない)や母親を返還する方式があるが、帰したものは食に供される(子どもへの嘘が生じるかも) 世話不足で死なせる事例が多い 体が大きいので死亡時や病気の治療など無料の処置には無理がある 角の処置に関わら頭突き事故の危険 子どもが攻撃されて、怪我・骨折などの報告がある		
ニワトリ	家畜・優しくすれば人に慣れるが、大型で、多くは気が荒い 子どもが攻撃されると危険 孵卵器でうまれ、親は育てないので、躰ができてない それでチャボに比べて社会性や知性が無いため、扱いにくい		
クジャクなど	雉やクジャクは野性が強く、オスは気が荒くメスや子どもを攻撃する また羽が強いのに閉じ込められている姿は楽しくない 狭い小屋で、綺麗な羽が傷みみすばらしい姿になる ・鳴声が大きく、近隣からの苦情がある(土地の人に勧められても、学校の相談相手の獣医師が反対していると、受け取りを断るように)		
アヒル	家畜・水深45センチ以上の水場がないと足裏や関節が悪くなるが、水を非常に汚すため、常に水の循環、あるいは掃除の必要のない広い池以外では、毎日の世話に手間がかかりすぎる 糞が水性で広がるので、コンクリート床でも毎日水洗いが必要だが、土床の場合はきれいにできない 管理が大変すぎる種類 オスは意地悪く子どもを攻撃することもある		
野生種	アライグマや狸など野生動物は成熟した時点で、殆ど人に馴れず、噛む可能性が高い 学校ではふれあえない動物は飼うべきではない 飼育は外来生物法・野生動物法などに抵触する		
外来種	外国には人と共通の感染症を持つ動物があり、感染症予防法での輸入禁止種が多い 外来生物法もあるので、間違っても飼わないこと		